



この町の「当たり前」には、特別な魅力が秘められている。

マルチワーカーの力で、地域へさらなる希望を――

そうした働き方を求めるマルチワーカーを地域に受け入れ、伴走支援する「しらたかマルチワーク事業組合（以下、たかマル）」が2024年6月より始動しました。現在、本組合には17の事業所が加盟しており、2人のマルチワーカーが、それぞれの事業所で活動しています。

**マルチワーカーがこの町を救う!!
人手不足を解消する一手に**

地方を取り巻く環境の中で、人手が足りない一方、給与水準が低いといったことが要因で雇用形態が安定せず、結果として人口流出につながっていることが深刻な問題となっています。

そのような状況を解消すべく、たかマルではマルチワーカーと町内事業所の架け橋となる活動を行っています。

まず、たかマルではマルチワーカーを正職員として雇用した上で派遣します。その結果、マルチワーカーは安定した収入を得ながら、さまざまな仕事に挑戦できます。マルチワーカーを一定数確保することで、人手不足に悩む事業所へより多く派遣することができるようになり、相互が抱える問題の解消が期待できます。なお、町内にお住まいの方でもマルチワーカーとして働くことができますので、興味のある方は、たかマル事務局までご一報ください。

この町に秘められた魅力を、マルチワーカーの手を借りて深掘りし、さらなる可能性と地域の活性化につなげていきます。

マルチワーカー

うちうみ わたる
内海 航 さん

いろいろな事業所さんと関わらせていただけるので、いつも新鮮な気持ちで仕事をしています。

実家が酪農をやっているのですが、そこで身についたスキルが、意外にも農業に活用できるという新しい発見がありました。マルチワークの魅力をまさに実感した瞬間でした。

農家

やない ゆういち
柳井 祐一 さん

人手が足りないと悩んでいた時に派遣してもらったことがとてもありがたいです。春先になればさらに忙しくなるので、これからも頼もしい存在であることは間違いありません。

また、今の制度も非常に使い勝手が良くこれからも積極的に活用させていただきたいと思っています。





—特集—

地方とつながる、多彩な働き方。 自分スタイルで見つける 「幸せ」のカタチ。

～しらたかで見つけた、マルチワークの生き方～

働きながら「生き方」を見つける
マルチワークとは

マルチワークとは、季節や時間によって複数の仕事に携わる働き方のこと。例えば、午前中は畑仕事をして午後は副業でリモートワーク。夏は果樹園で働き、冬は食品加工所で働く。このように、地域やそれぞれの希望に合わせて業務を組み合わせられる仕事のことです。

マルチワーカー

おしたに しん
押谷 伸 さん

農業と一口で言っても、多種多様な品種があり、人それぞれの栽培方法があることを知りました。

何より、自然と触れ合う仕事がかんにも素敵なことなんだと実感しており、マルチワークという働き方があったおかげで、こういう生き方もあるのだと、その魅力に気づかされました。

農家

ふなやま ゆうすけ
船山 裕介 さん

冬期間に60aの畑から啓翁桜を収穫・出荷しており、安定した人手の確保が必要でした。

押谷さんのような方がいるおかげで、仕事の幅も増やせまし、「外からの視点」で気づかされることも多々あり、これからの可能性をさらに伸ばしてくれると思います。

